

---

# 死神という名の天使

禰孤

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

死神という名の天使

### 【Nコード】

N6590L

### 【作者名】

襍孤

### 【あらすじ】

死神と名乗る女の子。なぜ俺が？楽しい毎日が始まるはずだった俺の幸せは一瞬にして奪われた

俺と死神ともう1人の俺？

△ロタシュンペイ  
俺は室田 俊平

今年から高校生。楽しみでわくわく  
だった。のになんだこの今の状況は！！

「早く死になさい」

と目の前にいる女の子が鎌を俺に向ける。なんだかよくわからない  
んだが…

―数分前―

俺は新しい制服でわくわくしながら歩いていた

「室田俊平…」

名前を呼ばれ振り返る。そこには今俺の目の前にいる女の子だ。小  
学生か中学生くらいだ

「お前誰？」

「私は死神」

「は？」

なにを言ってるのやら…。

「あなたには死んでもらいます」

と鎌を取り出したのだ。どこから出したのかわからない、気付けば  
女の子が持っていた

「ちょっと待…うわっ」

女の子は話を聞こうとはしない。ただただ鎌を振り回す。俺は必死  
によける。鎌には黒くなった…血。今までにも誰かを殺していたのか

そして今。逃げ道はない。新しい制服はぼろぼろだ

「なぜ逃げるの」

冷たい目だ

本気だ

殺される

「さ、終わりにしましょ」

女の子は鎌を振り上げる

（ここまでか…）

思わず目をつむる

「……………」

あれ？んん？生きてる…恐る恐る目をあけると女の子は気絶していた

「なんで」

「あなたの力ですよ」

どこからか声がする

「力？」

「そう、あなたは強大な力を持っている。しかしそれが暴走するととめられなくなる。だからあなたを殺さなければならない」

「そんなの俺は！」「あなたの命を狙うのはその子だけじゃない。あなたの力は目覚めつつある。お氣をつけを」

「どうしたらいいんだ！？」

返事はない…。俺の力？そんなのって…

「ん…」

女の子が目を覚ます。

「死神だっけ？大丈夫か？」

「いったいわね！さつさと死んでよ！」

いやそんなこと言われましても…

「鵲月から話は聞いた？」

「ああ」

鵲月っていつのか…。姿はなかったが

「わかったでしょう？死んで？」

待て待て、パニック状態だ。俺は死ななきゃいけないのか？世界の為に？

「きゃあああああ」

女の子が悲鳴をあげる

「どうした？」

「むむむむむ」

「む？？」

「虫いいいいいい」

と俺に抱き付いてくる。虫が嫌いなのか？女の子らしい。体も小さくて、肌が白くて美少女だ。こんな子が本当に死神なのか？服装は…うん、よく漫画にでてくる死神だ。

「虫いやあ」

「大丈夫だよ」

ぽんぽんと女の子の頭を撫で笑ってみせた。女の子は俺を見上げる。緑色の綺麗な瞳だ

「あ…」

かなり見つめてくる。なんだか吸い込まれそうだ

「えっと…？」

「……………」

「あもう」

「今度…」

「え？？」

「今度は必ず殺す」

ぞくつとした。冷たい目…

「俺を殺してお前は得するのか？お前が本当に死神なら世界がどうなろうと関係ないだろ？」

「関係ある」

「世界が荒れると異空間も歪むの。私達は異空間のためにも世界を守らなければならない。私達の柄じゃないけどね、自分達のために」

と女の子が悲しそうな顔で言う

「そんな…異空間なんて」

つか抱き締められたままなんだけど

「私、人間は嫌いだけどこの世界は好き…なの」

その嫌いな人間に抱き付いてるぞ？

「えっと「グスンッ…」

泣いてしまった。

「ごめんな」

とまた女の子の頭を撫でる

「俺を殺す以外に方法はないのか？」

やっと女の子は離れ

「方法がないことは…ない」

と言った

「じゃあ「けど命懸けよ」

「え？」

今なん…て？

「戦うのよ、あなたのその力と」

「戦うつて？」

「異世界にいるわ」

どっちにしろ死ぬかもしれない？俺は死ぬ運命なのか？

「あなたが異空間を救ってくれるなら一緒に戦う」

「人間嫌いなんだろ？」

「これが私の運命」

風で女の子の髪が靡く。フードが取れた

「…！」

こうみるとさつき以上に美少女だ

「……………なに」

俺が見とれていると女の子はフードを被り首を傾げる

「い、いや…」

こんな子が死神か。一緒にいたらいつ殺されるかわからない。だけ

ど…戦うしかないんだな。

「わかった戦おう」

「……ついてきて」

―数分後―

ある場所に連れてこられた。倉庫？

「あつれ〜？人間？」

と1人の女の子が俺を見てくる

「うん」

えっ、此処にいるのは…みんな死神か！？男もいる

「大丈夫」

俺が不安なのを察知したんだろう

「ああ」

案外優しい奴なのか？

「こいつを殺らなきゃ」

前言撤回。

「はーいっ」

みんなが鎌を出す。

「嘘だろ…」

「嘘」

嘘かいつ…！

「みんな室田俊平の力は知ってるよね？こいつの力と戦うから手伝  
つてほしいの」

「……………」

え？みんな黙り込んでしまった

「戦うの…？あれと？」

「死ぬ気？」

そんなにすごいのか…。

「異空間を守るため」

「……わかったよ！」

みんな手伝ってくれるそうさ。

「準備「その前に自己紹介しないか？」

これから共に戦うのに名前も知らないなんて

「お前なんか名前なんて」

「まあまあまあ、自己紹介しよう？」

「………<sup>ミオ</sup>澪」

俺を殺そうとしていた女の子は澪か…かわいらしい名前。

「私は梓<sup>アズサ</sup>だよーっ　よろしくねーっ」

女の子だ。服装はコートの長さが短い…？テンション高めのまあ女の子って感じ。一つ年下くらい？

「時雨<sup>シグレ</sup>です…」

大人しい感じの女の子。前髪で目が隠れていて顔はよくわからない。この子は同じ年くらいだろう

「僕は零<sup>レイ</sup>」

クールな感じの男の子だが美男だ。澪と同じ年くらいだ

「俺は雪。よろしくな」

いたって普通？いや死神って時点で普通じゃないな。俺と同じ年くらいか

「名字はないのか？」

「さあ」

なんか流された…

「準備しなきゃ」

準備ってなんの準備…戦う準備か

「こっちきて」

澪に呼ばれる。

「此处…は？」

「武器だらけ？」

…なんでこんなのが？こいつらには鎌があるはず

「なあ俺は本当に戦うのか？」



「……なに？今更」

「いや「はい、コレとコレ」

剣と盾をわたされる。これで戦えってか…

どうなるんだろ？俺

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6590/>

---

死神という名の天使

2010年10月10日17時52分発行